(19)日本国特許庁(JP)　(12)登録実用新案公報(U)　(11)実用新案登録番号
実用新案登録第3224732号
(U3224732)
(45)発行日　令和2年1月16日(2020.1.16)　(24)登録日　令和1年12月18日(2019.12.18)

(51)Int.Cl.			F I		
E04B	2/74	(2006.01)	E04B	2/74	501K
E04B	1/343	(2006.01)	E04B	1/343	J
E04H	1/12	(2006.01)	E04H	1/12	A

評価書の請求 未請求　請求項の数 9　OL　(全 14 頁)

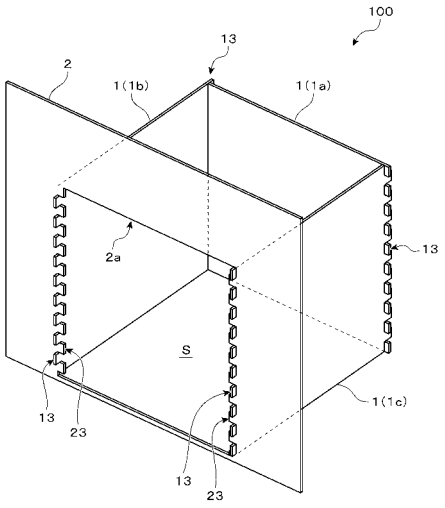
(21)出願番号　実願2019-4114(U2019-4114)
(22)出願日　令和1年10月30日(2019.10.30)

(73)実用新案権者　000199979
川上産業株式会社
東京都千代田区五番町６番地２　ホーマットホライゾンビル４階
(73)実用新案権者　595158522
日本保安工業株式会社
神奈川県横浜市神奈川区新子安２丁目４番８号
(74)代理人　110002354
特許業務法人平和国際特許事務所
(72)考案者　小山　巌
神奈川県横浜市神奈川区新子安２丁目４番８号　日本保安工業株式会社内

最終頁に続く

(54)【考案の名称】空間仕切りパネルユニット

(57)【要約】
【課題】複数の異なる部材や接合金具等を必要とせず、パネルの組立や設置、撤去が簡単に行え、保管や運搬も容易な空間仕切りパネルユニットの提供。
【解決手段】複数のパネルが互いに係合されて設置面に立設されることにより、当該設置面上の空間を仕切る組立室を構成する空間仕切りパネルユニットであって、３つの壁パネル１と、１つの入口パネル２とを備え、壁パネル１は、左右側端縁に係合部１３が形成され、入口パネル２は、開口部２ａを有し、開口部２ａの左右側縁に係合部２３が形成され、隣接して配置された２つの壁パネル１の係合部１３どうしが係合されるとともに、隣接して配置された壁パネル１と入口パネル２の係合部１３，２３どうしが係合された状態で、３つの壁パネル１及び入口パネル２が設置面Ｓに立設される。
【選択図】図１



【実用新案登録請求の範囲】
【請求項１】
複数のパネルが互いに係合されて設置面に立設されることにより、当該設置面上の空間を仕切る組立室を構成する空間仕切りパネルユニットであって、
３つの壁パネルと、開口部を有する１つの入口パネルとを備え、
前記壁パネルは、左右側端縁に係合部が形成され、
前記入口パネルは、左右側端縁、又は前記開口部の左右側縁に係合部が形成され、
隣接して配置された２つの前記壁パネルの前記係合部どうしが係合されるとともに、隣接して配置された前記壁パネルと前記入口パネルの前記係合部どうしが係合された状態で、前記３つの壁パネル及び前記入口パネルが前記設置面に立設される
ことを特徴とする、空間仕切りパネルユニット。
【請求項２】
前記係合部は、交互に設けられたほぞ部と欠込部とで形成されている
ことを特徴とする、請求項１記載の空間仕切りパネルユニット。
【請求項３】
前記ほぞ部は、当該ほぞ部の片面にパネル片が重ねて接合された二重部を有する
ことを特徴とする、請求項２記載の空間仕切りパネルユニット。
【請求項４】
前記係合部は、前記左右側端縁の両方にそれぞれ少なくとも２箇所に形成されたフックを備える
ことを特徴とする、請求項１記載の空間仕切りパネルユニット。
【請求項５】
前記係合部は、前記左右側端縁の一方の少なくとも２カ所に形成されたフックと、前記左右側端縁の他方の少なくとも２箇所に形成された、前記フックを挿入可能なスリットとを備える
ことを特徴とする、請求項１記載の空間仕切りパネルユニット。
【請求項６】
周囲に係合部が形成された天面パネルを更に備え
前記壁パネルは、上縁に係合部が更に形成されており
前記入口パネルは、上縁及び前記左右側端縁に係合部が形成されており、
前記天面パネルの前記係合部は、立設された前記壁パネルの前記上縁の前記係合部及び前記入口パネルの前記上縁の前記係合部と係合する
ことを特徴とする、請求項１～５のいずれかに記載の空間仕切りパネルユニット。
【請求項７】
係合部が形成された側端縁と、下端縁とを有する補助脚部パネルを更に備え、
前記補助脚部パネルの前記係合部は、前記下端縁が前記設置面に接触した状態で、前記設置面に立設された前記入口パネルの前記係合部と係合される
ことを特徴とする、請求項１～６のいずれか一項に記載の空間仕切りパネルユニット。
【請求項８】
付属台を構成する付属パネルユニットを更に備え、
前記付属パネルユニットは、４つの矩形状の側面パネルと、１つの天面パネルとを含み、
前記側面パネルは、左右側端縁に係合部が形成され、
隣接して配置された前記側面パネルの前記係合部どうしが係合されて、４つの前記側面パネルが連接されて前記設置面に立設されることにより、当該設置面上の空間を仕切る筒状空間が構成され、
前記筒状空間の上部開口を閉塞するように、立設された４つの前記側面パネル上に、前記天面パネルが載置される
ことを特徴とする、請求項１～７のいずれか一項に記載の空間仕切りパネルユニット。
【請求項９】

前記パネルが、合成樹脂製の中空板又は段ボールで構成されている
ことを特徴とする、請求項１～８のいずれか一項に記載の空間仕切りパネルユニット。
【考案の詳細な説明】
【技術分野】
【０００１】
本考案は、空間仕切りパネルユニットに係り、より詳細には、建物内や屋外等において組み立てられて使用される簡易型の組立室を構成するための空間仕切りパネルユニットに関する。
【背景技術】
【０００２】
体育館のような広い空間を有する建物が避難所として使用される場合、避難者のプライバシーを確保するために、板状のパネルを組み立てて空間を仕切ることによって、簡易な個室や更衣室といった組立室を設置することがある。
このような組立式の組立室は、組み立てや設置が簡単に行え、保管や搬送，撤去等も通常の家屋等と比較して容易に行えるものであり、一時的，応急的な空間の間仕切り等に利用される。例えば海水浴場等に一時的に設置される更衣室や、被災地等に設置される緊急用の医療室、被災者が公共の施設（体育館，講堂，公民館等）に避難した場合の避難者同士の間仕切りや目隠し用の空間・部屋などに使用される。
【０００３】
このような簡易・一時的に設置される組立室の一例が特許文献１に開示されている。特許文献１に記載されている「組立式簡易更衣室」は、縦長の外板パネルを複数用意し、各外板パネルの縦方向に沿って可撓性の連結金具を連結して屈曲可能な外壁部材を形成するとともに、連結した外壁部材の両端間を接近させて、その間に開閉ドアを取り付けて更衣室を形成するようになっている。このような簡易型の組立室は、外板パネルや連結金具、開閉ドアを分解した状態で持ち運び、設置箇所においてそれらを組み立てることで、所望の場所に設置でき、使用後は再び分解することで撤去・移動することが可能となる。
【先行技術文献】
【特許文献】
【０００４】
【特許文献１】特開平５－２９５９０７号公報
【考案の概要】
【考案が解決しようとする課題】
【０００５】
しかしながら、以上のような簡易型の組立室は、複数の外板パネルや連結金具、ドア部を構成する開閉ドア等の複数の異なる種類の部材、部品を用意し、それらを適切に組み合わせて、工具等を使用して組み立てる作業が必要であった。また、複数の部材、部品の管理や保管等が煩雑となるうえ、組立・分解作業も必ずしも容易ではなかった。
このため、例えば被災地用に多くの組立室を備えておくような場合には、大量の板状部材や金具、備品等を準備することになり、そのための保管や運搬等の作業も過大なものとなり、管理者や作業者に大きな負担を与えるという問題があった。
【０００６】
また、複数種類の板部材や連結部材を適切に組み合わせて、それを固定用の金具や工具を使用しつつ組立室を組み立てる作業は、経験のある者であっても必ずしも容易ではなく、一時的、応急的に使用される簡易型の更衣室等の場合、設置経験のない者が作業を行うこともあり、組み立て，設置の作業が煩雑乃至困難なものとなるおそれがあった。
【０００７】
本考案は、上記の事情に鑑みてなされたものであり、複数の異なる部材や部品、接続のための金具や工具等を必要とすることなく、きわめて簡単に組立や設置、撤去が行え、非使用時の保管や運搬、管理等も容易である、簡易型の組立室の設置に好適な空間仕切りパネルユニットの提供を目的としている。

【課題を解決するための手段】
【０００８】
上記目的を達成するため本考案の空間仕切りパネルユニットは、複数のパネルが互いに係合されて設置面に立設されることにより、当該設置面上の空間を仕切る組立室を構成する空間仕切りパネルユニットであって、３つの壁パネルと、開口部を有する１つの入口パネルとを備え、前記壁パネルは、左右側端縁に係合部が形成され、前記入口パネルは、左右側端縁、又は前記開口部の左右側縁に係合部が形成され、隣接して配置された２つの前記壁パネルの前記係合部どうしが係合されるとともに、隣接して配置された前記壁パネルと前記入口パネルの前記係合部どうしが係合された状態で、前記３つの壁パネル及び前記入口パネルが前記設置面に立設されることを特徴としている。
【０００９】
このような構成からなる本考案の空間仕切りパネルユニットによれば、パネルの係合部どうしを係合させるだけで、一定の大きさに仕切られた空間を形成する組立室を構成することができるため、複数種類の板部材やそれを接合するための金具や工具等を必要とすることなく、組立作業はきわめて簡単で、経験のない者等であっても直感的に理解して組立室の組立作業を行うことが可能となる。
【考案の効果】
【００１０】
本考案によれば、複数の異なる部材や部品、接続のための金具や工具等を必要とすることなく、きわめて簡単に組立や設置、撤去が行え、非使用時の保管や運搬、管理等も容易である、簡易型の組立室の設置に好適な空間仕切りパネルユニットを提供することができる。
【図面の簡単な説明】
【００１１】
【図１】本考案の第１実施形態に係る空間仕切りパネルユニットによって構成された組立室を正面側から見た斜視図である。
【図２】図１に示した組立室を背面側から見た斜視図である。
【図３】本考案の第１実施形態に係る空間仕切りパネルユニットを示し、（ａ）は、壁パネルを示し、（ｂ）は、入口パネルを示す。
【図４】（ａ）は、第１の変形例の係合部の要部斜視図であり、（ｂ）は、（ａ）に示した係合部の係合を示す上面図である。
【図５】（ａ）は、第２の変形例の係合部の要部斜視図であり、（ｂ）は、第３の変形例を示す係合部の要部斜視図である。
【図６】（ａ）は、補助脚部パネルの斜視図であり、（ｂ）は、補助脚部パネルを係合した組立室の要部斜視図である。
【図７】組立室内に配置された付属台の斜視図である。
【図８】（ａ）は、付属台を構成する側面パネルの斜視図を示し、（ｂ）は、付属台を構成する天面パネルの裏面側斜視図を示す。
【図９】本考案の第２実施形態に係る空間仕切りパネルユニットによって構成された更衣室を正面側から見た斜視図である。
【図１０】本考案の第２実施形態に係る空間仕切りパネルユニットを示し、（ａ）は、壁パネルを示し、（ｂ）は、入口パネルを示し、（ｃ）は、天面パネルを示す。
【図１１】本考案の実施形態に係る空間仕切りパネルユニットを構成する中空板材を示す要部斜視図であり、（ａ）は三層構成の気泡ボードを示しており、（ｂ）は（ａ）に示す気泡ボードの端部（縁部）を封止材で封止した場合を示している。
【考案を実施するための形態】
【００１２】
以下、図面を参照して、本考案の第１実施形態に係る空間仕切りパネルユニットを説明する。
図１に、本考案の第１実施形態に係る空間仕切りパネルユニットによって形成された組

立室を正面側から見た斜視図を示し、図２に、図１に示した組立室を背面側から見た斜視図を示す。

図１及び図２に示すように、本実施形態の空間仕切りパネルユニットは、複数のパネルは、３つの壁パネル１と、１つの入口パネル２とを含み、これら複数のパネル１（１ａ，１ｂ，１ｃ）及び２が互いに係合されて設置面Ｓに立設されることにより、当該設置面Ｓ上の空間を仕切る組立室１００を構成する。

【００１３】

図３（ａ）に、壁パネル１の正面図を示す。同図に示すように、壁パネル１は、互いに平行な上縁１１及び下縁１２と、互いに平行な側端縁とで画成されたほぼ矩形形状の平面板であり、左右両側の側端縁には係合部１３が形成されている。壁パネル１の係合部１３は、交互に設けられたほぞ部１３１と欠込部１３２とで形成されている。

【００１４】

なお、本実施形態においては、３枚の壁パネル１（１ａ，１ｂ，１ｃ）は、コストの低減を図るため互いに同一の寸法形状を有しているが、３枚の壁パネル１（１ａ，１ｂ，１ｃ）の寸法形状は互いに異なっていてもよい。また、壁パネル１の上縁１１は、下縁１２と平行でなくてもよく、湾曲した外形を有していてもよい。

【００１５】

また、図３（ｂ）に、入口パネル２の正面図を示す。同図に示すように、入口パネル２は、互いに平行な上縁２１及び下縁２２と、互いに平行な側端縁２３とで画成された矩形状の外形を有する平面板であり、開口部２ａを有する。開口部２ａは、人が組立室１００内に出入り可能な大きさである。

開口部２ａの左右側端縁に係合部２３が形成されている。入口パネル２の係合部２３も、交互に設けられたほぞ部２３１と欠込部２３２とで形成されている。

【００１６】

なお、本実施形態では、入口パネル２を矩形状の外形としているが、入口パネルの２の外形はこれに限定されない。また、本実施形態では、入口パネル２の開口部２ａの下縁に、細長い下縁部２０ａを設けているが、開口部２ａは、下縁側が開放されていてもよい。下縁側が開放されている場合であっても、入口パネル２を立設することにより、設置面Ｓによって開口部２ａの下縁が画成される。

【００１７】

空間仕切りパネルユニットを構成する壁パネル１及び入口パネル２の寸法形状は、組立室１００の用途や構成に応じて適切な値に設定することができる。例えば、組立室１００が構成された状態で、室内の人が外部から見えない（覗かれない）大きさの組立室１００が構成されるように、壁パネル１及び入口パネル２の大きさが設定されるとよい。

壁パネル１は、例えば、幅（左右両端縁の長さ）が２０００ｍｍ～４０００ｍｍ、高さ（上縁及び下縁の長さ）が１６００ｍｍ～１７５０ｍｍの大きさに形成される。また、入口パネル２の外形は、壁パネル１よりも大きく、例えば、幅が２５００ｍｍ～４５００ｍｍ、高さが、１７５０ｍｍ～３０００ｍｍの大きさに形成される。入口パネル２の開口部２ａの大きさは、壁パネル１の大きさと実質的に同等であることが好ましい。

【００１８】

そして、図２に良く示すように、隣接して配置された２つの壁パネル１の係合部１３どうしが組手接ぎのように組み合わされて係合されるとともに、図１に良く示すように、隣接して配置された壁パネル１の係合部１３と入口パネル２の係合部２３０が組手接ぎのように組み合わされて係合された状態で、３つの壁パネル１（１ａ、１ｂ、１ｃ）及び入口パネル２が設置面Ｓに立設されて、組立室１００が構成される。

【００１９】

（第１の変形例）

次に、図４を参照して、係合部の第１の変形例を説明する。図４（ａ）は、第１の変形例の係合部の要部斜視図を示し、図４（ｂ）は、図４（ａ）に示した係合部の係合を示す上面図を示す。

図４（ａ）に示すように、本変変形例の係合部１４は、ほぞ部１４１と欠込部１４２のうち、ほぞ部１４１の片面にパネル片１４３が部分的に重ねて接合された二重部１４０を有する。

図４（ｂ）に示すように、かかる係合部１４どうしを係合させると、二重部１４０のパネル片１４３の端部が、係合する相手の係合部１４の欠込部１４２に係止される。これにより、係合部１４どうしの係合が外れにくくなり、組立室１００の形状が安定的に保持される。

なお、図４では、壁パネル１の係合部１４を示しているが、入口パネルの係合も同様にすることができる。

【００２０】

（第２の変形例）

次に、図５（ａ）を参照して、係合部の第２の変形例を説明する。同図は、第２の変形例の係合部を示す要部斜視図である。

本変形例では、係合部１５は、左右側端縁の両方にそれぞれ少なくとも２箇所に形成されたフック１５１を備える。図５（ａ）の左側に図示されている壁パネル１は、同図の右側に図示されている壁パネル１を上下反転させたものである。隣接する壁パネル１のフック１５１どうしを係合させることによって、壁パネル１を立設することができる。

【００２１】

（第３の変形例）

次に、図５（ｂ）を参照して、係合部の第２の変形例を説明する。同図は、第３の変形例を示す係合部を示す斜視図である。

本変形例では、係合部１６は、左右側端縁の一方の係合部１６ａに少なくとも２カ所に形成されたフック１６１と、左右側端縁の他方の係合部１６ｂに少なくとも２箇所に形成された、フックを挿入可能なスリット１６２とを備える。図５（ｂ）の左側に図示されている壁パネル１は、同図の右側に図示されている壁パネル１を左右反転させたものである。壁パネル１のフック１６１を隣接する壁パネル１のスリット１６２に貫通させて係合させることによって、壁パネル１を立設することができる。

なお、図５（ａ）及び図５（ｂ）では、壁パネル１の係合部１５及び１６を示しているが、入口パネルの係合も同様にすることができる。

【００２２】

（補助脚部）

本実施形態の空間仕切りパネルユニットは、補助脚部パネルを更に備えることが好ましい。

図６（ａ）に、補助脚部パネルの斜視図を示し、図６（ｂ）に、補助脚部パネルを係合した組立室の要部斜視図を示す。図６（ａ）に示すように、補助脚部パネル３は、互いに平行な上端縁３１と下端縁３２とを有し、左右両側の一方の側端縁に係合部３３が形成され、他方の側端縁には傾斜縁３４が形成されたほぼ大形状の平面板である。

補助脚部パネル３の係合部３３は、交互に設けられたほぞ部３３１と欠込部３３２とで形成されている。ほぞ部３３１と欠込部３３２とのピッチは、壁パネル１の係合部１３のほぞ部１３１と欠込部１３２とのピッチと同じである。

【００２３】

図６（ｂ）に示すように、補助脚部パネル３の係合部３３は、下端縁３２が設置面Ｓに接触した状態で、設置面Ｓに立設された入口パネル２の係合部２３と係合される。補助脚部パネル３を設けたことにより、壁パネル１が室内側に倒れることを防止することができる。

【００２４】

（付属台）

また、本実施形態の空間仕切りパネルユニットは、付属台を更に備えることが好ましい。

図７に、組立室１００内に配置された付属台２００の斜視図を示す。

付属台２００を構成する付属パネルユニットは、４つの矩形状の側面パネル４と、１つの天面パネル５とを含む。付属台２００は、組立室１００内に配置できる大きさであればよく、椅子又は机として使用することができる。

【００２５】

図８（ａ）に示すように、側面パネル４は、互いに平行な上縁４１及び下縁４２と、互いに平行な側端縁とで画成されたほぼ矩形形状の平面板であり、左右両側の側端縁には係合部４３が形成されている。側面パネル４の係合部４３は、交互に設けられたほぞ部４３１と欠込部４３２とで形成されている。

そして、隣接して配置された側面パネル４の係合部４３どうしが係合されて、４つの側面パネル４が連接されて設置面Ｓに立設されることにより、当該設置面Ｓ上の空間を仕切る筒状空間が構成される。

なお、本実施形態においては、４枚の側面パネル４は、コストの低減を図るため互いに同一の寸法形状を有しているが、側面パネル４の横幅は互いに異なっていてもよい。

【００２６】

また、図８（ｂ）に、付属台２００を構成する天面パネル５の裏面側斜視図を示す。同図に示すように、天面パネル５は、矩形形の天板５０と、天板５０の裏面に貼り付けられた、天板５０よりも一回り小さい裏板５１とで構成されている。図７に示すように、天面パネル５は、立設された４つの側面パネル上４に、筒状空間の上部開口を閉塞するように載置される。このとき、天面パネル５の裏板５１の周縁部が、側面パネル４の上縁によって係止されることによって、天面パネル５が側面パネル４に対してずれることが防止される。

【００２７】

次に、本考案の第２実施形態に係る空間仕切りパネルユニットを説明する。本実施形態では、組立室として更衣室を形成する。

図９に、本考案の実施形態に係る空間仕切りパネルユニットによって構成された簡易型の更衣室を正面側から見た斜視図を示す。同図に示すように、本実施形態の空間仕切りパネルユニットは、複数のパネルは、３つの壁パネル７と、入口パネル８と、天面パネル９とを含み、これらのパネルが互いに係合されて設置面Ｓに立設されることにより、当該設置面Ｓ上の空間を仕切る更衣室７００を構成する。

なお、更衣室７００には、入口パネル８の開口２ａを覆うカーテン（図示せず。）が設けられているとよい。カーテンの材料は特に限定されず、例えば、布製であってもよいし、毛布でもよいし、ブルーシートでもよい。

【００２８】

図１０（ａ）に、壁パネル７の正面図を示す。同図に示すように、壁パネル７は、互いに平行な上縁７１及び下縁７２と、互いに平行な側端縁とで画成されたほぼ矩形形状の平面板であり、上縁７１と左右両側の側端縁には係合部７３が形成されている。壁パネル７の係合部１３は、交互に設けられたほぞ部と欠込部とで形成されている。

なお、３枚の壁パネル７は互いに同一の寸法形状を有しているが、３枚の壁パネル７の寸法形状は互いに異なっていてもよい。

【００２９】

図１０（ｂ）に、入口パネル８の正面図を示す。同図に示すように、入口パネル８は、互いに平行な上縁８１及び下縁８２と、互いに平行な側端縁とで画成された矩形状の外形を有する平面板であり、組み立てられた更衣室７００の出入り口となる開口部８ａを有する。上縁８１と左右両側の側端縁には、交互に設けられたほぞ部と欠込部とで形成され係合部８３が形成されている。

【００３０】

図１０（ｃ）に、天面パネル９の正面図を示す。同図に示すように、天面パネル９は、周囲に係合部９３が形成されている。天面パネル９の係合部１３も、交互に設けられたほぞ部と欠込部とで形成されている。そして、天面パネル９の係合部９３が、立設された壁パネル７の上縁７１の係合部７３及び入口パネル８の上縁８１の係合部８３と係合される

ことにより、更衣室７００が構成される。

【００３１】

更衣室を構成する空間仕切りパネルユニットを構成する壁パネル１及び入口パネル２は、図１及び図２に示した組立室よりも左右の幅が狭くなっており、更衣室７００が構成された状態で、人が室内に出入り可能な大きさであり、更衣室内に更衣が可能な広さが確保されるように、壁パネル７及び入口パネル８の大きさが設定されている。例えば、壁パネル７及び入口パネル８の幅（左右両端側の長さ）が１１２００ｍｍ、パネル１０の高さ（上端及び下端側の長さ）が２０００ｍｍの大きさに形成されるとよい。

【００３２】

（中空パネル）

次に、組立室を構成する空間仕切りパネルユニット、及びその付属台を構成する付属パネルユニットの各パネルは、合成樹脂製の中空板又は段ボールで構成されとよい。特に、合成樹脂製の中空板からなるパネルは、保温性や耐水性、耐久性にも優れ、汚れても洗浄して再利用できる点で優れている。このような中空板材は、一般に、気泡ボート、プラスチック段ボールなどと称されるものが知られている。

【００３３】

図１１を参照して、パネルを構成する中空板材として、気泡ボードを説明する。

図１１は、本実施形態に係るパネルを構成する板状部材となる中空板材を示す要部斜視図であり、図１１（ａ）は三層構成の気泡ボードを示しており、図１１（ｂ）は図１１（ａ）に示す気泡ボードの端部（縁部）を封止材で端面封止した場合を示している。

気泡ボードは、中高構造をなすための立体加工が施されたコア材の表裏両面に平板状の外装材を積層してなる合成樹脂製の中空板材からなっている。具体的には、図１１（ａ）に示す気泡ボード１０００は、中空状に膨出する多数の突起１０３が成形されたコア材としてのキャップシート１０２と、突起１０３内に空気を封入して気泡を形成する一方の外装材としてのバックシート１０１と、突起１０３の頂面側に積層された他方の外装材としてのライナーシート１０４とを備えている。

このような気泡ボード１０００は、例えば、図示しない多数のキャビティ孔が設けられた成形ロールの外周面に、シート状に連続して繰り出される溶融樹脂を接触させて中空状に膨出する多数の突起１０３を真空成形することによってキャップシート１０２を形成しつつ、このキャップシート１０２を、突起１０３の開口側に供給されたバックシート１０１と、突起１０３の頂面側に供給されたライナーシート１０４とで挟み込み、これらを熱融着により積層一体化し、しかる後に所定の形状に切り出すことによって製造することができる。

なお、上記のようにして気泡ボード１０００を製造するにあたり、バックシート１０１、キャップシート１０２、ライナーシート１０４のそれぞれの厚みは、気泡ボード１０００に要求される強度、剛性などを考慮して適宜調整することができる。通常は、例えば１００μｍ～１．５ｍｍ程度とすることができる。

【００３４】

また、気泡ボード１０００を構成する中空板材は、端面が封止されることが好ましい。

具体的には、所定の形状に切り出された気泡ボード１０００の端面に、図１１（ｂ）に示すように、帯状の封止材１０５を熱融着などによって取り付けることで、中空板の開口した端面を封止することができる。また、気泡ボード１０００からパネルを切り出す際に、加熱した刃で気泡ボード１０００を溶断することによっても、気泡ボード１０００の端面を封止することができる。

このようにすることで、気泡ボード１０００の内部に異物が侵入してしまうのを防止するとともに、それぞれの気泡１０３の間にも空気が封入されるようにして、さらなる断熱性の向上を図ることもできる。

【００３５】

さらに、端面が封止された気泡ボード１０００に、キャップシート１０２のキャップ内部と気泡ボード１０００の外部とを連通させる小孔（図示せず）を形成してもよい。かか

る小孔を形成することにより、気泡ボード１０００の吸音性能を向上させることができる。これにより、例えば、避難所となった広い体育館内に組立室１００を設置することによって、組立室を構成する空間仕切りパネルユニットそのものが吸音材として機能するため、避難所内の騒音を低減することができる。

【００３６】

なお、以上のような気泡ボード（中空板材）１０００の材料樹脂としては、例えば、ポリプロピレン，ポリエチレン等のポリオレフィン系樹脂、ポリスチレン等のポリスチレン系樹脂、ポリエチレンテレフタレート等のポリエステル系樹脂、ナイロン等のポリアミド系樹脂などを挙げることができる。

但し、これらに特に限定はされるものではなく、他の合成樹脂・材料を用いることも勿論可能である。

【００３７】

以上、本考案の空間仕切りパネルユニットについて、好ましい実施形態を示して説明したが、本考案の空間仕切りパネルユニットは、前述した実施形態にのみ限定されるものではなく、本考案の範囲で種々の変更実施が可能であることは言うまでもない。例えば、パネルを構成する部材としては、合成樹脂製の中空板以外にも、例えば紙製の段ボールや厚紙など、組立室を構成するのに適した板状部材であれば、任意の素材を採用することができる。

【産業上の利用可能性】

【００３８】

本考案は、建物内や屋外等において組み立てられて使用される簡易型の組立室を構成するための空間仕切りパネルとして利用可能であり、特に、組み立てや設置が簡単に行え、保管や搬送，撤去等も容易な、簡易型の組立室用の空間仕切りパネルユニットに好適に利用可能である。

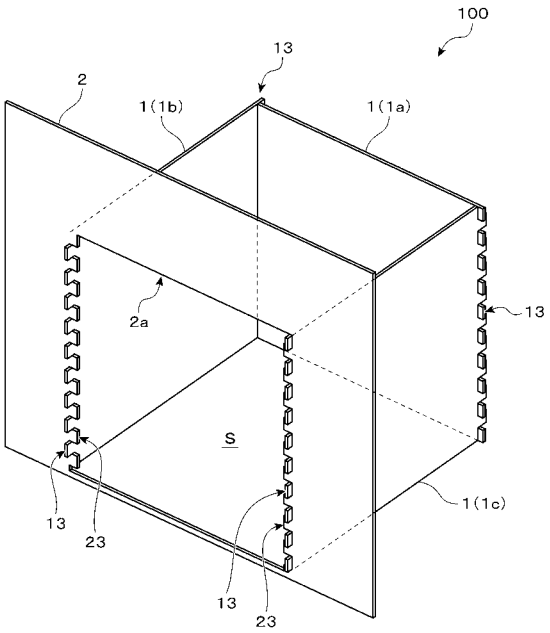
【符号の説明】

【００３９】

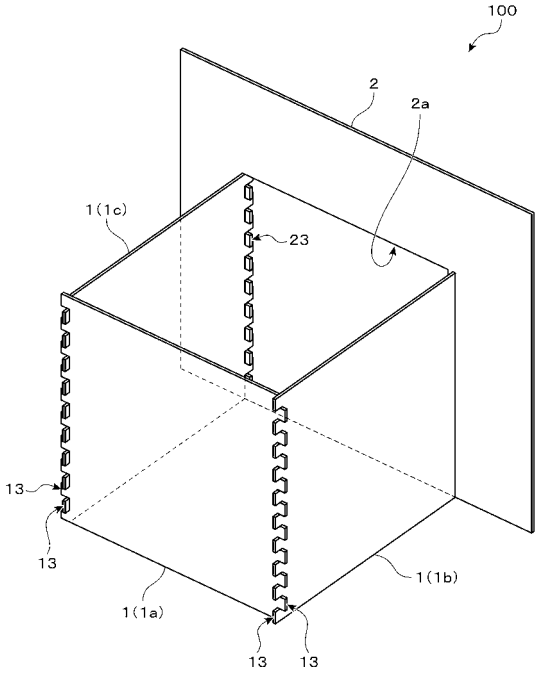
１，１ａ，１ｂ，１ｃ　壁パネル
２　入口パネル
２ａ　開口部
３　補助脚部パネル
４　側面パネル
５　天面パネル
７　壁パネル
８　入口パネル
８ａ　開口部
９　天面パネル
１１　上縁
１２　下縁
１３　係合部
２０ａ　下縁部
２１　上縁
２２　下縁
２３　係合部
４１　上縁
４２　下縁
７１　上縁
７２　下縁
７３　係合部
８１　上縁
８２　下縁

８３　係合部
９３　係合部
１００　組立室
１３１　ほぞ部
１３２　欠込部
２００　付属台
２３１　ほぞ部
２３２　欠込部
４３０　係合部
４３１　ほぞ部
４３２　欠込部
７００　更衣室
１０００　気泡ボード
Ｓ　設置面

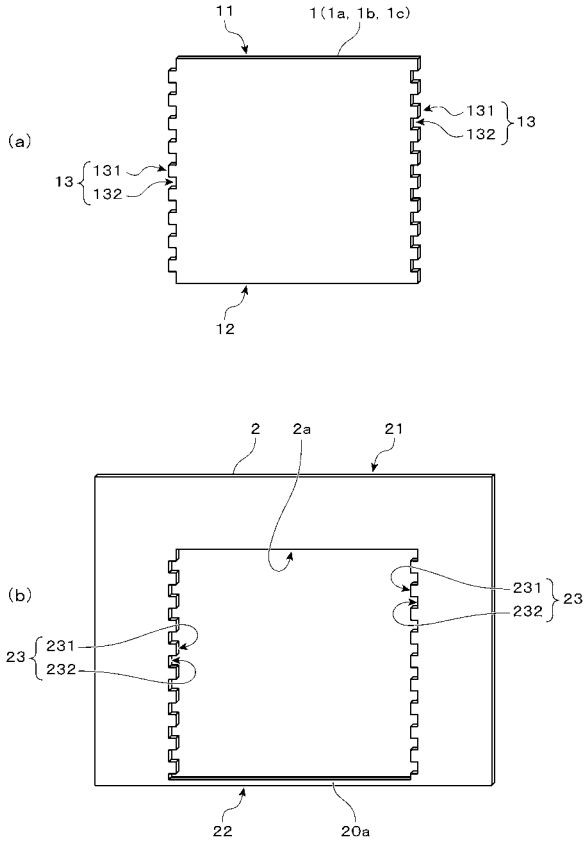
【図１】



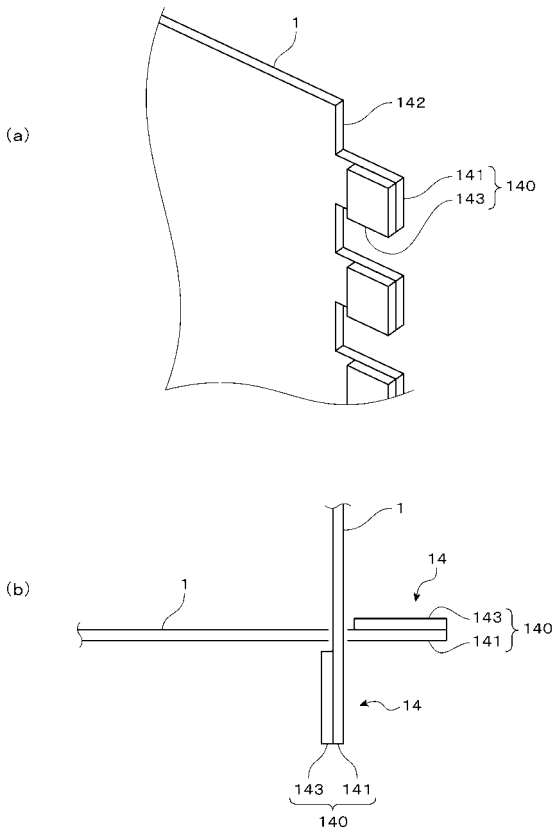
【図２】



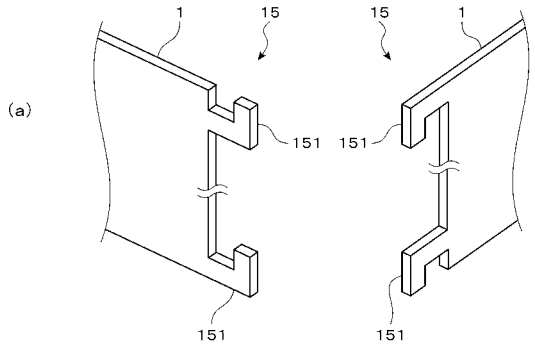
【図３】


(a)
11
1(1a, 1b, 1c)
131
132
13
13
131
132
12
(b)
2
2a
21
231
232
23
23
231
232
22
20a

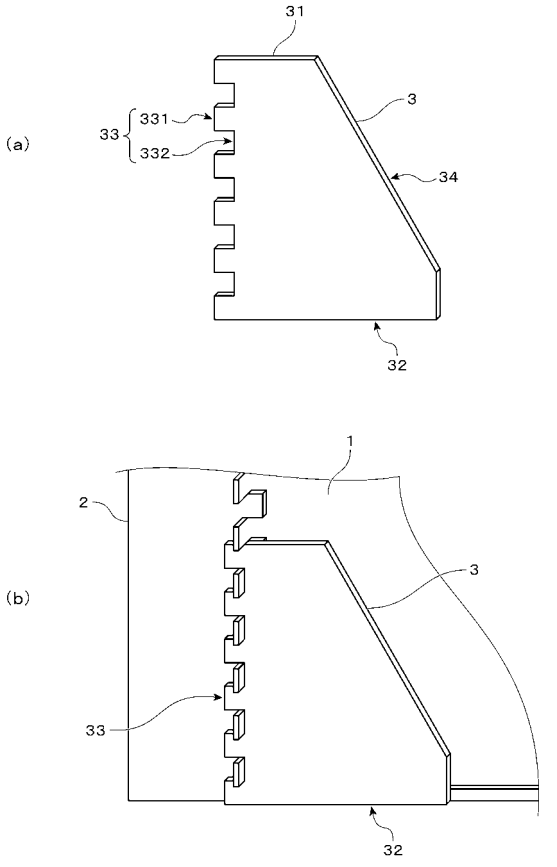
【図４】


(a)
1
142
141
143
140
(b)
1
1
14
143
141
140
14
143
141
140

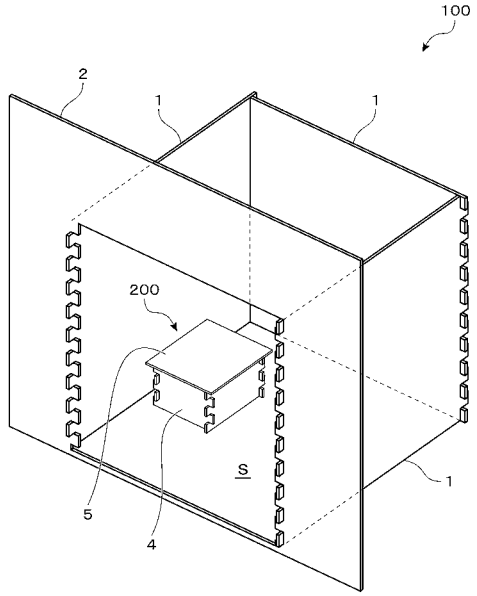
【図５】


(a)
1
15
15
1
151
151
151
151
(b)
1
16
16b
16a
1
162
161
162
161

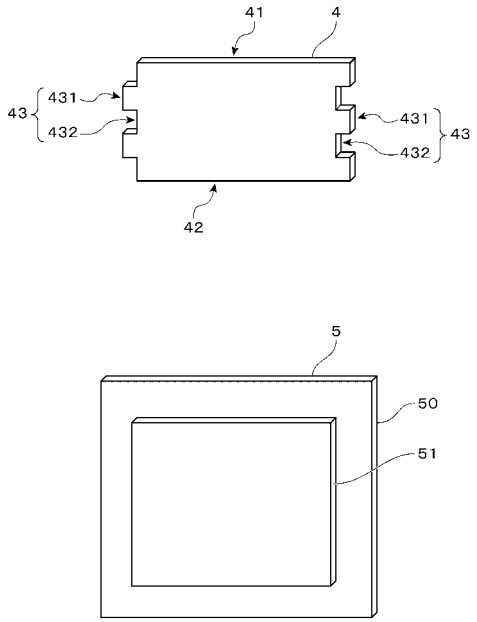
【図６】


(a)
31
3
331
332
33
34
32
(b)
1
2
3
33
32

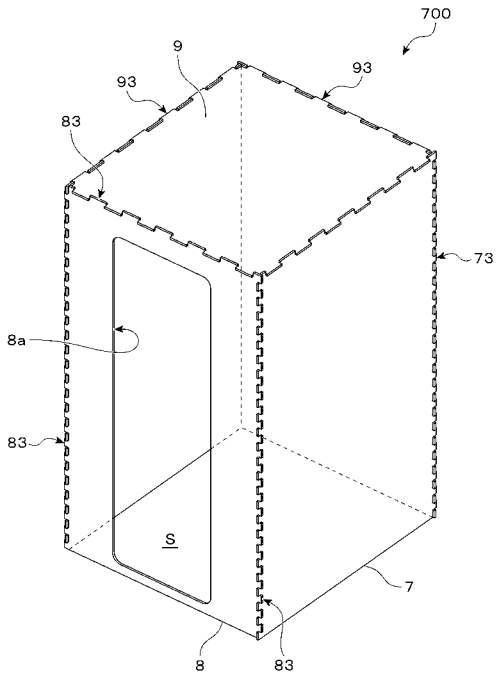
【図７】


100
2
1
1
200
S
1
5
4

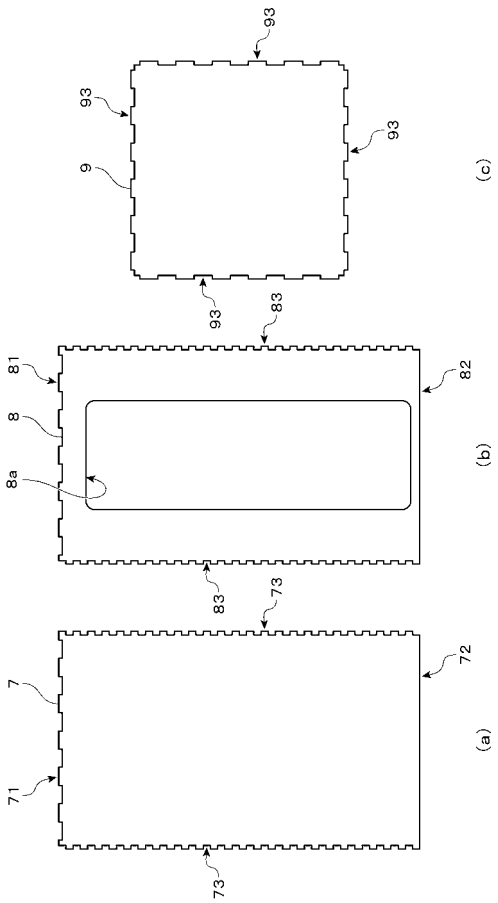
【図８】


41
4
431
43
432
431
43
432
42
5
50
51

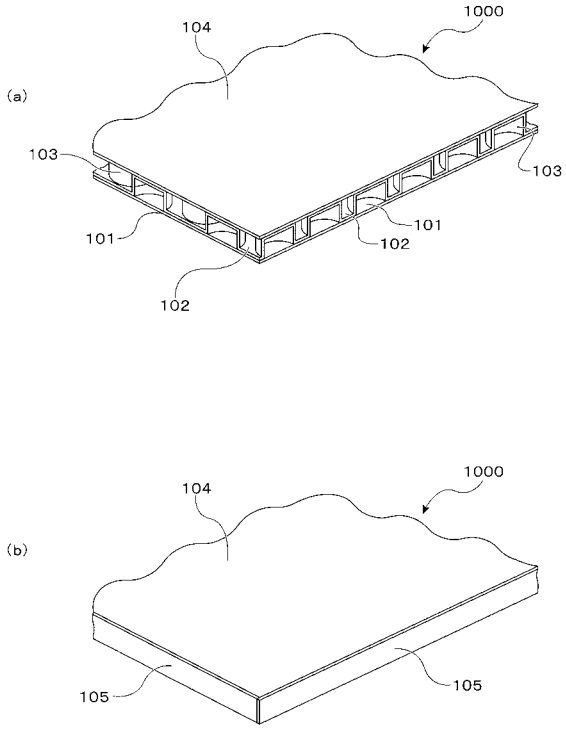
【図９】


700
9
93
93
83
73
8a
83
S
7
8
83

【図１０】


93
93
93
9
(c)
93
83
81
82
8
8a
(b)
83
73
7
72
71
(a)
73

【図１１】



フロントページの続き

(72)考案者　森島　敏之
東京都千代田区五番町６番地２　ホーマットホライゾンビル４階　川上産業株式会社内